

骨粗鬆症リエゾンサービス

単に治すだけじゃない。 再骨折で痛い思いをしないため、です

今回、伊藤隼也は新潟リハビリテーション病院を訪問。
英国のやり方にならない、骨粗鬆症による再骨折予防に多職種で取り組む現場と、
そこに携わる看護師を取材しました。



リハ室の様子。大腿骨頸部骨折や椎体骨折は全体の3割程度

退院後の自宅生活でもっともネックになるのが風呂だという(上)
リエゾン川柳イラスト。職員の句に専門学生がイラストをつけた(下)



骨粗鬆症による骨折は高齢者の
寝たきりにつながる大きな要因だが、
科学的根拠に基づく予防が可能だ
この取り組みが広がることを願う

「高齢者の大腿骨近位部骨折 反対側の骨折リスクは4倍」

伊藤 大腿骨近位部骨折は高齢者の寝たきりや死亡リスクを高めることが知られています。貴院では、2013年から「骨粗鬆症リエゾンサービス」を開始し、患者さんの再骨折予防に力を注いでいます。星野さんは当初から関わっているんですね。

星野 はい。コーディネーターとして13年の9月から活動しています。**伊藤** 骨粗鬆症リエゾンサービスというのは初めて耳にしましたが、どんなことを行っているのでしょうか。

星野 大腿骨近位部骨折で当院に入院している患者さんに対して、退院後に再骨折しないようにリハビリをするのと同時に、生活指導を行ったり、

運動や栄養について学んでもらったりしています。認知症が進んでいる方もおられるので、患者さんの家族にも協力してもらいます。

伊藤 高齢者の再骨折リスクはどれくらいなのでしょう。

星野 大腿骨近位部骨折の患者さんの場合、多くは骨粗鬆症という病気があるので、一度骨折した人の反対側の骨折リスクは、普通の人の4倍になります。しかも1年以内に骨折する例が少なくありません。

伊藤 高いですね。僕も実は昨年、足をケガして、しばらく車いす生活を送ったんですね。そのときに多職種がシームレスに関わることの大切さを感じましたが、ここでは実際に多くの専門職がチームとして、患者さんに関わっているんですね。

伊藤 星野さんはリエゾンサービスでコーディネーターとして活動しているとのことですが、具体的にどんなことを行っているのでしょうか。

星野 私は地域連携室にいますので、急性期病院から大腿骨近位部骨折の患者さんの転院の連絡を受けたら、患者さんの基本情報を入力します。また患者さんの検査結果や、病棟看護師、管理栄養士の聞き取った内容が基本調査票として届くので、それを元に患者さんと面談して、再骨折リスクの評価を行います。

伊藤 チームが関わるのは、その後になりますか？

星野 はい。およそ1週間後にカンファレンスをして、その再骨折リスクの評価をもとにチームの役割を確認するとともに、患者情報と退院に向けての目標を共有します。

伊藤 その共有した事項をもとに、それぞれの専門職が1団となって患者さんに必要なケアを行っていく。

星野 その通りです。**伊藤** チームの関わり方は？

星野 例えば、薬剤師は患者さんの服用する薬のうち、転倒につながる薬はないかチェックしてくれますし、その方の身体的な状況を見て「飲み込みが悪いから、注射薬のほうがいい」とか提案してくれます。

「転院直後に再骨折リスク評価 1週間後からチームが関わる」

伊藤 具体的には？

星野 例えば、ある60代の患者さんは、入院中は穏やかで積極的に再骨折予防に取り組んでおられたのですが、退院間近になって急に不安を口にし始めたんです。よく聞くと親の介護がありそれが不安だと。そういうところはもう少し前から関わっていく必要があると思っています。



取材にあたって行われた模擬カンファレンスの様子(上)
空気圧で下半身を支えられるトレッドミル(下)

伊藤 ずいぶん上がりましたね。
星野 また、3年後の大腿骨の再骨折率は3・5%でした、介入しないと1年後の再骨折率は7〜8%といわれています。このサービスが軌道に乗ってきたことから、5年前から椎体骨折の患者さんに対しても、チームで関わるようになってきました。

伊藤 先ほど介護士の話が出ました、福祉との連携はどうですか？
星野 「壁」があるといわれていますが、退院後の支援としてこちらが願う立場ですので、そこはいいねいに対応するようにしています。
伊藤 いいですね。
星野 最近は介護現場というか、主に介護老人保健施設(老健)では、転倒による骨折の問題に理解を示してくるところも出てきています。老健では薬代は施設側の負担となるため、これまで高額な骨粗鬆症の治療薬は切ら

地域医療では医療と介護の視点が 欠かせないが、いまだにある「壁」 高齢者の健康を担う専門家として 新潟リハの例を参考にしたい

伊藤 確かに、転倒につながる薬は少なくないので、その役割は大事ですね。では、介護士は？
星野 退院後に介護を受ける患者さんも多いので、退院が近くなったときに、どんな生活環境や療養環境を



骨折手帳を手に説明をする星野さんと「骨折手帳」とその中身(左)

整備するかというところで、関わってもらいます。
伊藤 多職種がチームで関わることのメリットはどこにありますか？
星野 一つは、これまで各専門職がバラバラに指導していたものが、統一されたことで、役割の見える化につながったこと。もう一つは、退院後の患者さんの状況がフィードバックされるので、モチベーションが上がったということです。
伊藤 患者さんの反応はどうですか？ 特に高齢者は、病院は病気を治してもらった場所という意識があるので、こうしたリエゾンサービスのようなものに、戸惑いを覚えることもあると思いますが。
星野 それもあるので、患者さんに

は必ず「チームで患者さんを支えるので、入院してきたときよりもよくなって帰りましたよ」とお伝えします。骨粗鬆症の原因はいろいろですが、やはり大きいのは生活習慣です。単に骨折を治すだけでなく、再び骨折して痛い思いをしないためにも、薬はキチンと飲み、栄養をしっかりと摂り、できる範囲で運動をしてといったことが大事です。そこに患者さん自身が気付いて、始めて行動が変わってくるというか……。そのために専門職がそれぞれの専門性を活かしてアプローチすることが必要だと考えています。

「通常は年間約7%の再骨折率 介入で3年間3・5%に減少」

伊藤 入院時が変わった意識が継続するには、退院支援も大事ですね。
星野 新型コロナが広がる前は、退院前に自宅訪問して家庭内の転倒リスクなどを評価していたのですが、今はそれができなくて、代わりに訪問リハにつながっています。
伊藤 退院した患者さんに対し、星野さんから骨粗鬆症マネージャーが定期的に電話していると聞いています。
星野 はい。痛みがないかとか、ご飯をしっかりと食べているかとか、転びそ

れる傾向にありましたが、そうした薬の継続も認めてくれる施設も出てきました。

「海外では骨折予防を高く評価 日本ではまだ十分ではない」

伊藤 費用的なものはいかがですか？ 例えば、さっき話していた退院後の電話支援は？
星野 病院の持ち出しです。
山本(同院長) 地域連携パスの枠組みで行った場合は診療報酬がついて、退院支援などでも加算がつかます。十分ではありません。欧米のある国では骨折を深刻な問題と捉えているため、リエゾンサービスを含めた骨折ケアの基準を実施した場合、1000ユーロ(約13万円)の加算がつかます。

伊藤 なるほど。近年、人工骨頭のデバイスなどの価格がとても高くなり、骨折の治療は高額化していますよね。その医療費を削減できる骨折予防の取り組みに対しては、それなりの評価があってもいいと思います。ところで、雪国新潟ではやはり冬の屋外での転倒が多いんですか？
星野 いえ、圧倒的に室内が多いです。特に春ごろ、まだコタツをしまっていない家庭がいっぱいあって、コタツ布団に足を引っ掛けて転倒ケース

うになったことはないかとか、全般的に話を聞きます。それで何か疑問や問題があった場合、かかりつけ医やケアマネにつながったり、当院の薬剤師や管理栄養士に相談してその答えを患者さんに返したりして、サポートしていきます。

伊藤 それは患者さんも安心ですね。
星野 最初は薬の継続のための受診勧奨だと思っていた患者さんも、次第に、いつも見守ってくれている人、困ったときに相談できる人という認識に変わるみたいです。

伊藤 同院がこの取り組みを始めて8年です。結果が見えてきたころではありませんか？
星野 はい。これまでにサービスを受けた患者さんは528人で、今日(9月15日)時点で3年目が過ぎた人は318人います。退院1年後の薬の継続率は、取り組み前の20%に対し、2019年は82%でした。



国際骨粗鬆症財団のHP※で紹介されている認定施設

がとても目立ちます。
伊藤 へえ、それは、北国あるあるですね。地域における医療連携が求められて久しいですが、今回の取材でも患者を中心とした医療連携がまだ道半ばという実態を目の当たりにしました。高齢者が、在宅でより良く生きて行くには「地域連携」しかありません。コロナ禍で思うような取り組みが難しいという、深刻な状況だと思いますが、リエゾンサービスのようないまが認知され、多くの地域に広がることを期待します。今日はありがとうございました。

伊藤 準也 (いとう しゅんや)

医療ジャーナリスト・写真家・医療情報研究所代表

profile

患者中心の医療を実現するため医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中
ホームページ shunya-ito.tv



※<https://www.capturethefracture.org/map-of-best-practice>